

EMF (拡張 Windows メタファイル) 変換ソフト



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL：045-442-0500 FAX：045-442-0501
URL：<http://www.kernelcomputer.co.jp>

概要

HP-GL, HP-GL/2, OFI, DXF, DWG データを EMF フォーマット (拡張 Windows メタファイル) へ変換します。

特徴

- ・ HP-GL, HP-GL/2, OFI, DXF, DWG データから EMF データに変換します。
- ・ コマンドラインから入出力ファイル名をキーインする事で実行可能です。
- ・ 実行時各入出力フォーマットの属性パラメータやオプションパラメータを設定可能です。
- ・ 回転や任意のページのみの変換指定が可能です。

動作環境

対応 OS Windows2000/XP

価格 (税別)

製品名	標準価格
HPTOEMF	20 万
H2TOEMF	25 万
OFITOEMF	25 万
DXFTOEMF	25 万
DWGTOEMF	25 万

操作方法

XXXTOEMF は、コマンドライン形式のアプリケーションです。
通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込むことが可能です。

ここでは、直接コマンドラインから入力して実行する場合の、基本的な操作手順を示します。
(Windows の環境でご使用の場合は、タスクバーの「スタート」メニューから「プログラム/アクセサリ/コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。)

まず、変換を始める前に、変換に必要な情報を設定しておく必要があります。
XXXTOEMF では、そのために属性ファイルと呼ばれるファイルを使います。
(属性ファイルの詳細については、「属性データ変換パラメータファイルの利用方法」の章を参照してください。)

変換を実行するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
XXXTOEMF 変換前のファイル名 -0 変換後のファイル名 オプションコマンド
```

-0 は、マイナス記号とアルファベットの「オー」です。

大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、-0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定することはできません。

例えば、in_file.dt を out_file.dt に変換するには、次のように入力します。(下線部が、入力する部分です。)

```
> XXXTOEMF in_file.dt -0out_file.dt
```

正常に変換できた場合は、次のような表示が出て終了し、リターンコード 0 が返されます。

```
XXXTOEMF 変換終了
```

エラーの場合は、次のような表示が出て終了し、リターンコードとして 0 以外の値が返されます。

```
XXXTOEMF 変換エラー
```

これ以外のエラーメッセージが出ることもあります。詳しくは、「エラー一覧表」の章を参照してください。

XXXTOEMF には、変換時に指定できる様々なオプションが用意されています。(-0 も、オプションの一つです。)
次のように入力すると、オプションの一覧が表示されます。

```
> XXXTOEMF -Q
```

オプションの詳細については、「オプション一覧表」の章を参照してください。

<注意事項>

変換処理が何らかの原因により途中で異常終了した場合、一時ファイルが削除されずに残ってしまう可能性があります。一時ファイルは、以下の場所に「kd」ではじまるファイル名で作成されます。

このようなファイルが残ってしまった場合は、削除しても問題ありません。

```
Windows 版 環境変数 TEMP および TMP で設定された場所
```

オプション

- 0[filename] : EMF 出力ファイル名 (初期値:標準出力)
- R[rotation] : 出力時 90 度単位の回転を指定します。(初期値:0 度)
- U[IN_ATR_NAME] : 入力属性ファイル名を指定します。
- Z[OUT_ATR_NAME] : 出力属性ファイル名を指定します。
- PAGE[Page No] : ページ指定
複数ページを持つデータをメタファイルに変換する際、変換を行うページを指定できます。
ページを指定した場合、指定されたページのみを変換します。
ページ指定を行わない場合、出力されるファイル名には、
data.emf data_2.emf data_3.emf のように、ページ番号が付加されます。
- V : データ中に含まれる文字列を、弊社ストロークフォント (別途購入して

いただく必要があります)で線分として変換します。指定しない場合は、Windows フォントにより、文字列として変換します。

-LOG[LOG_FILE] : ログファイル名 (初期値 : 標準出力)
変換結果をログファイルへ出力します。
但し、エラーが発生した場合のみ作成されます。

-XMLLOG[xml_log_file] : ログファイル名 (***.XML)
変換結果を XML 形式でログファイルへ出力 (追加) します。
※-log オプションでログファイルを必ず指定してください。
【ログファイルの内容】

ログファイル	
メッセージ	
ファイル情報	
エラーメッセージ (ERROR : -----)	

(注) 表示するための拡張子が XSL ファイルも同時に作成されます。
対応ビューについては「制限事項」の章を参照してください。

-RIREKI[RIREKI_FILE] : 履歴ファイル名 (初期値 : 出力無し)
変換結果のファイル情報を履歴ファイルへ出力 (追加) します。

変換結果は OK or NG で表されます。
変換結果が NG の場合は次の行に NG になった原因が記述されます。
履歴ファイルは、「-LOG」と違い変換結果を追記していきます。
履歴ファイル内の行数が 20000 行を超えると古い 10000 行を削除します。

-XMLRIREKI[xml_rireki] : XML 形式の履歴ファイル名 (***.XML)
変換結果のファイル情報を XML 形式で履歴ファイルに出力 (追加) します。
※-log オプションでログファイルを必ず指定してください。
【履歴ファイルの内容】

変換履歴				
日付	終了時間	変換元ファイル名	変換結果	メッセージ
2003/06/06	16:33:09	sample1.dt	NG	ファイル情報 エラーメッセージ(ERROR:-----)
2003/06/06	16:34:42	sample.dt	OK	
2003/06/06	16:36:03	sample2.dt	NG	ファイル情報 エラーメッセージ(ERROR:-----)

(注) 表示するための拡張子が XSL ファイルも同時に作成されます。
対応ビューについては、「制限事項」の章を参照してください。
履歴の件数が 20000 件を超えると、前半の 10000 件が削除されます。

-OPEN[pen_file] : ペン番号の情報をファイルに出力します。
HP-GL/2データの SP コマンド(ペン番号)の設定パラメータを取得し pen_file で指定されたファイルへ出力します。
Pen_file が指定されていない場合はこのオプションは無効になります。

-Q : ヘルプメッセージを表示します。
指定可能な入力パラメータを確認したい時に使用します。

-QV : 実行ファイル名とバージョン情報を表示します。

-BATCH[batch_file] : バッチファイルを使って、複数ファイルを一括処理します。

<使用方法>

処理の内容を記述したバッチファイルに-BATCHオプションで指定して実行します。
(各変換処理のログを残す場合は、-RIREKIオプションも指定します。)

```
XXXTOEMF -BATCHバッチファイル名 [-RIREKI履歴ファイル名]
```

<バッチファイルの作成方法>

- ・バッチファイルはテキスト形式で、1行につき1件の処理を記述することができます。行数に制限はありません。各行には、入力ファイルやオプションパラメータなどを、コマンドラインに記述するのと同様の形式で記述します。このとき、実行モジュール名(XXXTOEMF)は記述しません。通常は次のような形式になります。

```
入力ファイル -O出力ファイル [オプションパラメータ]
```

- ・入力ファイルと出力ファイルの指定では、ワイルドカード(「*」など)を使うことができます。入力ファイル名でワイルドカードを使うと、それに該当するファイルすべてについて、それぞれ処理が行われます。出力ファイル名にワイルドカードを使うと、対応する入力ファイルの拡張子を変更したものが出力ファイル名となります。(したがって出力ファイル名には、必ず拡張子を指定する必要があります。)
- ・通常は、バッチ処理の途中でエラーが発生しても処理を続行しますが、次の行をバッチファイルの先頭部分に記述しておくと、エラーが発生した時点でバッチ処理が中断されるようになります。

```
$break
```

- ・先頭が「#」の行はコメント行とみなされ、無視されます。

<バッチファイルの例>

- (1) ディレクトリ DIR_A の中の拡張子 .data のファイルをすべて、ディレクトリ DIR_B の中の拡張子 .dt のファイルに変換します。

```
dir_a/*.data -Odir_b/*.dt (UNIX系)
```

あるいは

```
dir_a\*.data -Odir_b\*.dt (Windows系)
```

※パスの指定方法がUNIX版(/)とWindows版(\)と異なりますのでご注意ください。

- (2) 拡張子 .data のファイルをすべて連結して1つのマルチページファイル test.dt に変換します。(注: この処理は、マルチページ出力可能なフォーマットのみ有効。)

```
*.data -Otest.dt -M
```

- (3) (2)と同様ですが、途中でエラーが発生したら処理を中断します。

```
$break  
*.data -Otest.dt -M
```

<制限事項>

- ・バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大255文字までです。
- ・スペースを含むファイル名を指定することはできません。
- ・入力ファイル名にワイルドカードを指定した場合、処理されるファイルの順番はアルファベット順になります。
- ・出力ファイル名には、必ず拡張子を指定して下さい。
- ・バッチファイルの中に-BATCHオプションを記述することはできません。

<バッチファイル作成上の注意>

- ・バッチファイルはテキスト形式で作成して下さい。
(例: Microsoft Wordで作成する場合は『テキスト改行』でファイルを保存して下さい。)
- ・バッチファイル内の項目は半角英数字で作成して下さい。

例：sample.dt を sample.emf へ変換

```
C:\> XXXTOEMF sample.dt -Osample.emf
Copyright(c) 1992-2008 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.

XXXXX(sample.dt) ->拡張(sample.emf) ファイル コンバータ

ただいま、ファイル変換中です。

XXXTOEMF 変換終了
```

例：sample.dt を 90 度回転して sample.emf へ変換

```
C:\> XXXTOEMF sample.dt -Osample.emf -R90
Copyright(c) 1992-2008 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.

XXXXX(sample.dt) ->拡張(sample.emf) ファイル コンバータ

ただいま、ファイル変換中です。

XXXTOEMF 変換終了
```

例：sample.dt を sample.emf へ変換。変換時に使用する属性ファイルを指定します。

```
C:\> XXXTOEMF sample.dt -Osample.emf -Z"..\%emf_out_kcs.atr"
Copyright(c) 1992-2008 by Kernel Computer System Co.,Ltd. All rights reserved.

XXXXX(sample.dt) -> 拡張(sample.emf) ファイル コンバータ

ただいま、ファイル変換中です。

XXXTOEMF 変換終了
```

上記の例では、1 つ上のフォルダにある属性ファイルを相対パスとファイル名を指定します。絶対パスでの指定も可能です。

- (注) 入力ファイル指定なしの場合標準入力となります。
出力ファイルを指定なし(-O オプションなし) の場合は標準出力となります。